

令和3年度「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」  
の調査結果について（速報値）

令和4年3月3日  
スポーツ庁

## 1. 障害者の運動・スポーツの実施率について

- 成人の障害者の運動・スポーツ（学校の授業等を除く。以下「スポーツ等」という。）の実施率は、週1回以上では31.0%（前年度から6.1ポイント増）、週3回以上では16.5%（前年度から4.2ポイント増）と共に上昇した。
- 若年期の障害者のスポーツ等の実施率は、週1回以上では41.8%（前年度から13.9ポイント増）と大きく上昇した。
- スポーツ等実施者（過去1年間に1回以上スポーツ等を実施した者。以下同じ。）の割合は、成人で58.7%（前年度から12.3ポイント増）、若年期で73.1%（前年度から22.5ポイント増）と共に大きく上昇した。
- 実施率が上昇した主な要因としては、実施したスポーツ等の種類について、体操やなわとびと回答した者の割合が上昇していること、スポーツを実施する場所として自宅等（若年期については自宅等及び学校）の割合が上昇したことなどから、体力の低下を感じた方等が自宅等の身近な場所において一人でできるスポーツ等を実施したことが考えられる。

## 2. 運動・スポーツに対する関心、スポーツ等を行うにあたっての障壁

- スポーツ等を実施する上での障壁は、「特にない」「障壁はなく、十分に活動できている」を除き、「体力がない」（25.2%）、「時間がない」（14.7%）、「金銭的な余裕がない」（12.2%）の順であった。
- スポーツ等を実施する上での障壁について、「特にない」と回答した者の割合は26.2%（前年度から16.4ポイント減）、現在のスポーツ等への取組について、スポーツ等非実施者（過去1年間に1回もスポーツ等を実施していない者）のうち「特にスポーツ等に関心はない」と回答した者の割合は73.7%（前年度から9.1ポイント減）と、スポーツ等に無関心な者の割合は減少したことが予想される。

## 3. 運動・スポーツをやったこととやらない理由

- スポーツ等実施者がスポーツ等をやったことは、「ストレスが解消される」（38.6%）、「体力・身体的機能が向上した」（27.6%）、「体を動かすこと自体が楽しい」（24.2%）の順であった。
- スポーツ等非実施者でスポーツ等を実施する上での障壁が「特にない」と回答した者がスポーツをしない理由は、「特に理由はない」「わからない」を除き、「スポーツ等が嫌いである」（19.0%）、「スポーツ等に興味が無い」（16.4%）、「疲れるから」（6.3%）の順であった。

## 4. 障害者のスポーツ観戦状況について

- 過去1年間のテレビによるスポーツ観戦の有無を調査したところ、「プロ野球」（31.0%）が最も高く、続いて「東京2020オリンピック」（24.8%）、「高校野球」（18.7%）の順で

あった。

- 過去の大会よりもテレビ放送時間が増加した「東京 2020 パラリンピック」と回答した者が 17.3%と、観戦したスポーツの 5 位となった。

## 5. 今後の対応について

スポーツ庁では、障害のある方のスポーツ実施率向上のため、現在策定作業中の第 3 期スポーツ基本計画も踏まえつつ、以下の取組を実施します。

- ・ スポーツ施設等に対する障害者スポーツ用具の整備・導入等支援事業
- ・ スポーツ実施状況・阻害要因等の把握、振興ツール創出等のための調査研究事業
- ・ 障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業
- ・ 特別支援学校における運動・スポーツ活動促進等事業

また、公益財団法人日本パラスポーツ協会、その他のスポーツ団体や福祉事業者等の関係者と連携を進め、これらの取組を通して、障害のある方がスポーツを楽しめる環境の整備に取り組んでまいります。

(以上)

## 令和3年度「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」の概要

## 1 調査方式

無記名式のインターネット方式

## 2 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・ 障害児・者の基本情報（障害の種類、障害者手帳の保有状況など）
- ・ 運動・スポーツ<sup>(注)</sup>の実施状況（実施種目、頻度、施設、目的など）
- ・ 運動・スポーツの実施における障害
- ・ スポーツクラブや同好会・サークルへの加入
- ・ 過去1年間のスポーツ観戦

注 本調査における「運動・スポーツ」には、「散歩」や「身体活動を伴うリハビリテーション」等も含む。

## 3 調査対象及び回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・ 障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・ 障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は5,549人であった。兄弟、姉妹、第4子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人及び同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の総数は7,245人であった。

## 4 調査期間

令和3年12月8日（水）～令和3年12月15日（水）

## 5 回答者内訳

[N=7,245]

性別	男性	4,389	60.6%	障害発生年齢	0歳	1,279	17.7%	
	女性	2,822	39.0%		1～6歳	983	13.6%	
	その他	34	0.5%		7～12歳	622	8.6%	
年齢	7～12歳	496	6.8%		13～19歳	521	7.2%	
	13～19歳	581	8.0%		20～29歳	729	10.1%	
	20～29歳	774	10.7%		30～39歳	636	8.8%	
	30～39歳	952	13.1%		40～49歳	728	10.0%	
	40～49歳	1,124	15.5%		50～64歳	932	12.9%	
	50～64歳	1,708	23.6%		65～74歳	392	5.4%	
	65～74歳	768	10.6%		75歳以上	423	5.8%	
	75歳以上	842	11.6%		障害者手帳※	身体障害者手帳 1級	692	9.6%
	障害種別※	肢体不自由（車椅子必要）	739			10.2%	身体障害者手帳 2級	555
肢体不自由（車椅子不必要）		1,943	26.8%			身体障害者手帳 3級	466	6.4%
視覚障害		526	7.3%	身体障害者手帳 4級		424	5.9%	
聴覚障害		645	8.9%	身体障害者手帳 5級		206	2.8%	
音声・言語・そしゃく機能障害		327	4.5%	身体障害者手帳 6級		195	2.7%	
内部障害		627	8.7%	療育手帳（みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳）マルA・A（最重度・重度）		239	3.3%	
知的障害		727	10.0%	療育手帳（みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳）マルB・C（中度・軽度）		407	5.6%	
精神障害		1,681	23.2%	療育手帳（みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳）その他		62	0.9%	
発達障害		1,115	15.4%	精神障害者保健福祉手帳 1級		89	1.2%	
その他		34	0.5%	精神障害者保健福祉手帳 2級		601	8.3%	
福祉サービスの利用※	通所型	1,574	21.7%	精神障害者保健福祉手帳 3級		481	6.6%	
	入所型	394	5.4%	障害者手帳は持っていない		3,036	41.9%	
	訪問型	493	6.8%					
	その他	53	0.7%					
	上記のサービスは利用していない	4,937	68.1%					

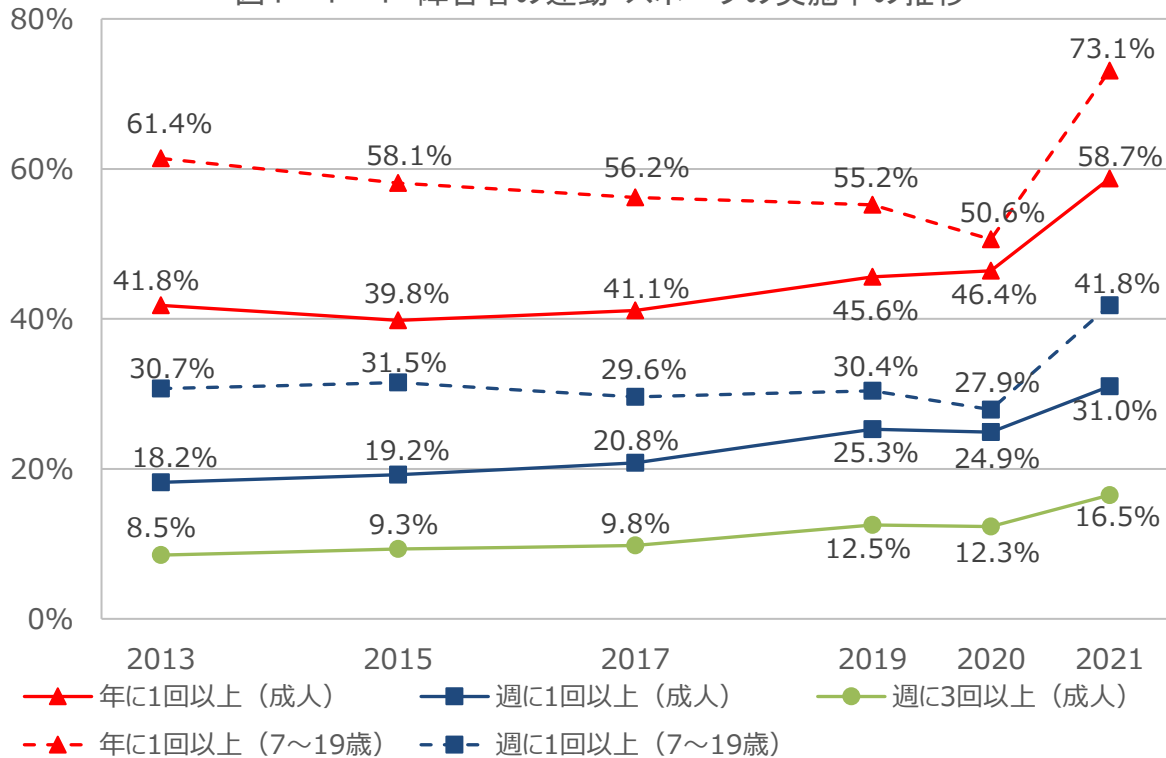
※の各項目は複数回答であるため、合計は一致しない。

1-1 障害者の運動・スポーツの実施率について

障害のある方の週1回以上の運動・スポーツ実施率については、成人及び7～19歳共に上昇した。特に、7～19歳における年1回以上スポーツを実施した者の割合が大きく上昇している。

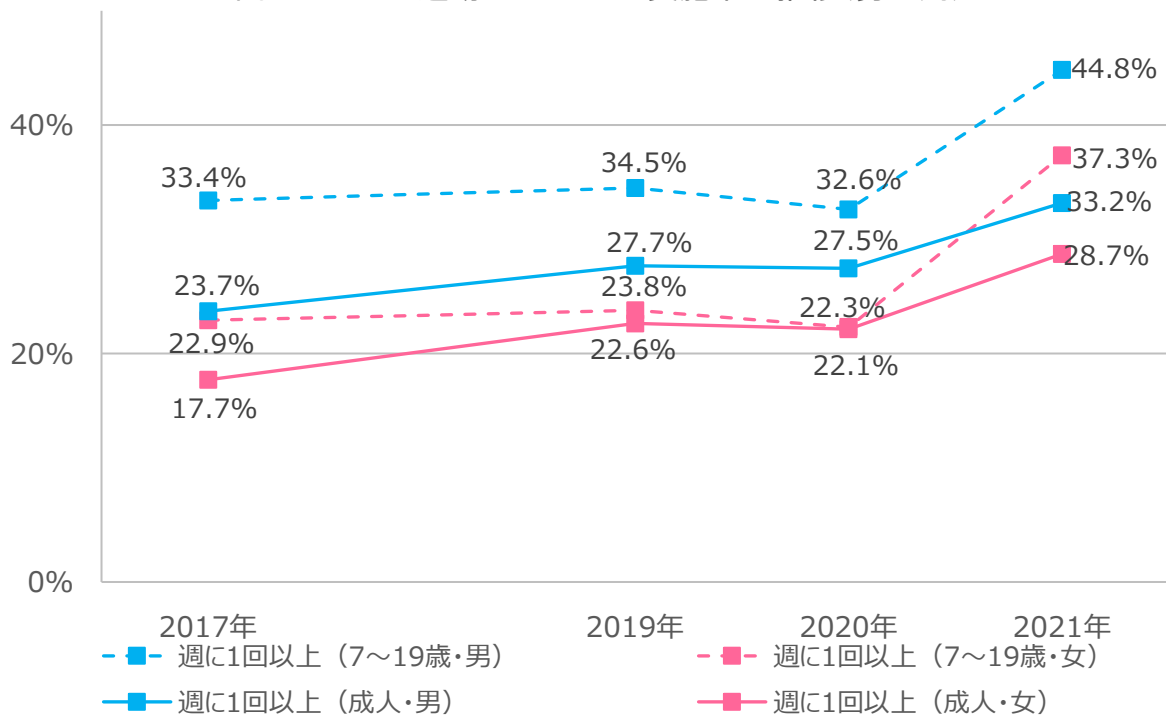
男女別では、7～19歳では成人に比べ男女の差が大きかったが、本年度調査においてはその差が縮まっている。

図1-1-1 障害者の運動・スポーツの実施率の推移



※ 「年に1回以上」には、過去1年間に何らかの運動・スポーツを実施しているが実施回数が「分からない」と回答した者を含む。

図1-1-2 運動・スポーツの実施率の推移(男女別)



## 1-2 障害種別週1回以上の運動・スポーツ実施率

障害種別の週1回以上の運動・スポーツ実施率については、成人、7～19歳ともにほとんどの障害種について上昇している。特に、7～19歳の知的障害、音声・言語・そしゃく機能障害、精神障害は10ポイント以上上昇している。  
一方、7～19歳の肢体不自由（車椅子必要）は若干ではあるが低下している。

図1-2-1 障害種別週1回以上の運動・スポーツ実施率(成人)

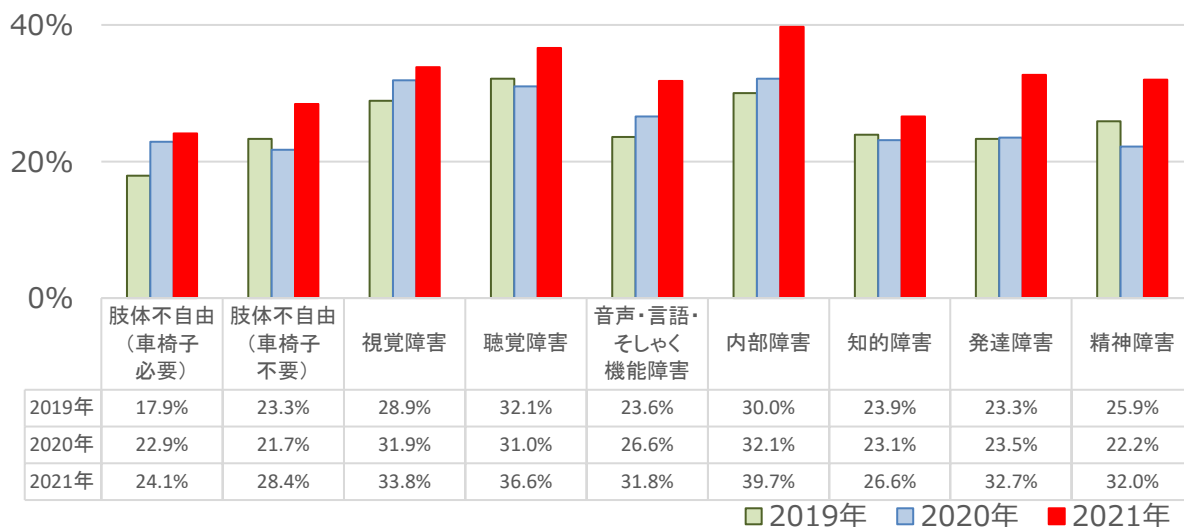
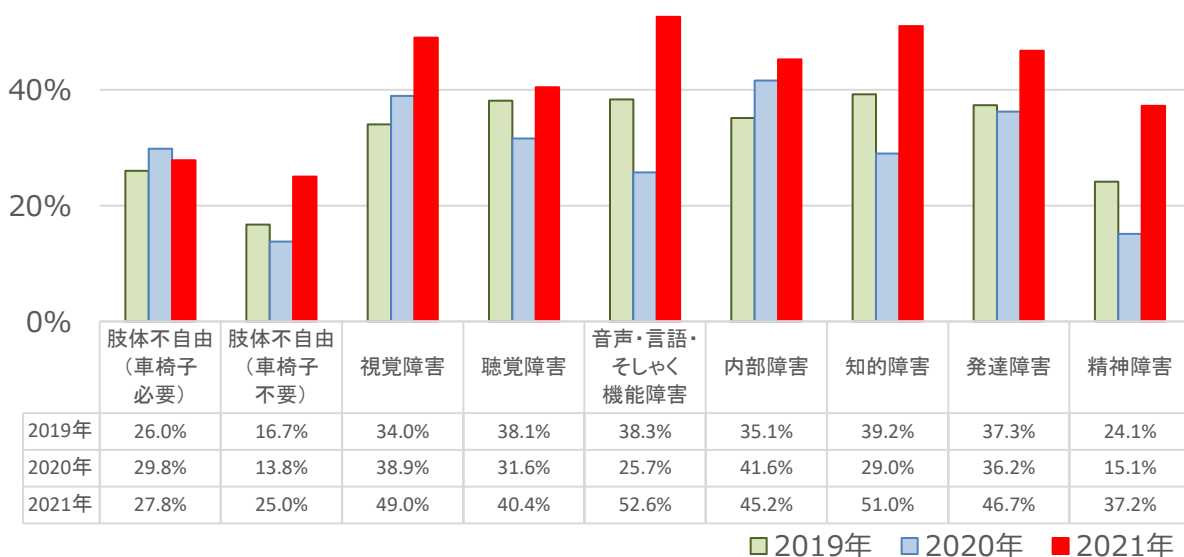


図1-2-2 障害種別週1回以上の運動・スポーツ実施率(7～19歳)



## 2 運動・スポーツを実施する上での障壁、スポーツへの取組状況

運動・スポーツを実施する上での障壁となっているものについてたずねたところ、「特にない」が26.2%と前年度調査の42.6%から大きく減少し、「体力がない」が25.2%と昨年度の13.0%から大きく増加している。

運動・スポーツへの取組についてたずねたところ、過去1年間に1回もスポーツを実施していない非実施者において、「特に運動・スポーツに関心がない」と回答した者の割合は、73.7%であった。

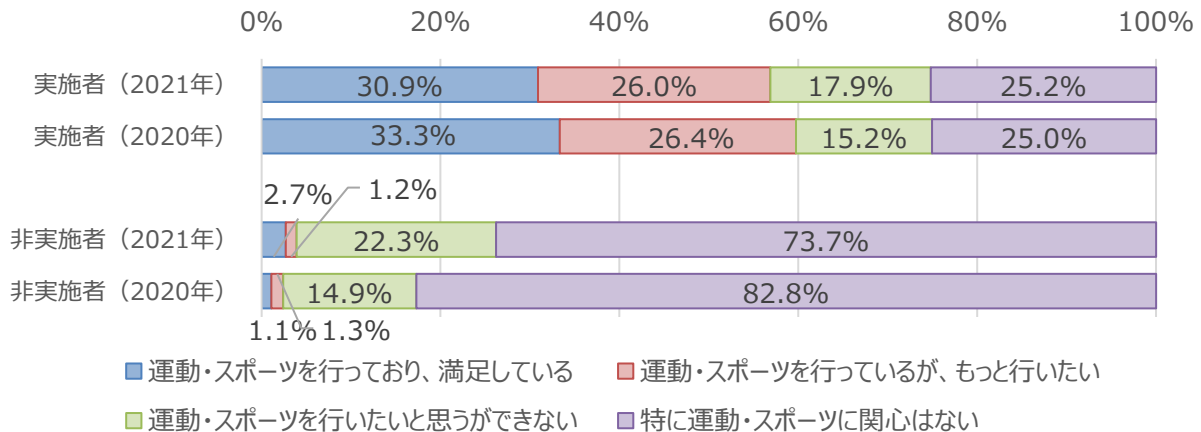
表2 運動・スポーツを実施する上での障壁(回答数の多かった上位10項目)  
(複数回答)

【N=2,559】

	2013	2015	2017	2019	2020	2021
体力がない	26.7%	23.3%	20.9%	18.5%	13.0%	25.2%
時間がない	14.5%	12.6%	14.2%	9.2%	6.0%	14.7%
金銭的な余裕がない	25.9%	21.8%	21.5%	17.5%	10.7%	12.2%
運動・スポーツが苦手である	7.5%	7.8%	6.9%	6.1%	4.0%	10.1%
新型コロナウイルスなど感染症に対する不安						9.3%
やりたいと思う運動・スポーツがない	10.0%	9.5%	8.3%	7.6%	6.3%	9.1%
人の目が気になる	6.1%	6.4%	6.5%	5.2%	3.6%	7.3%
障害に適した運動・スポーツがない	7.7%	6.6%	6.3%	4.6%	3.5%	5.5%
仲間がない	10.5%	10.0%	8.8%	5.7%	3.9%	4.7%
交通の便が良いところに施設がない					5.4%	4.5%
特にない	33.1%	35.2%	37.7%	46.2%	42.6%	26.2%
障壁はなく、十分に活動できている					14.5%	15.8%

※ 運動・スポーツへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図2 現在の運動・スポーツへの取組



※ 運動・スポーツへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

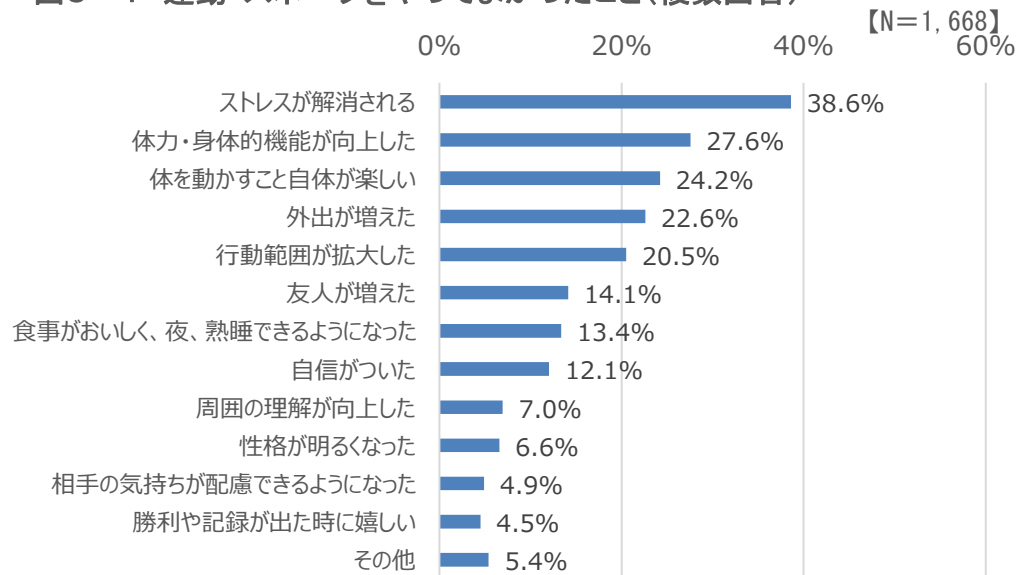
※ 非実施者の中に「運動・スポーツを行っており、満足している」「運動・スポーツを行っているが、もっと行いたい」と回答した人がある。矛盾した回答であるが、比較の参考としてそのまま掲載した。

### 3 運動・スポーツをやってよかったこと、運動・スポーツをやらない理由

実施者に運動・スポーツをやってよかったことについてたずねたところ、「ストレスが解消される」が38.6%と最も多く、次いで「体力・身体能力が向上した」27.6%、「体を動かすことが楽しい」24.2%であった。

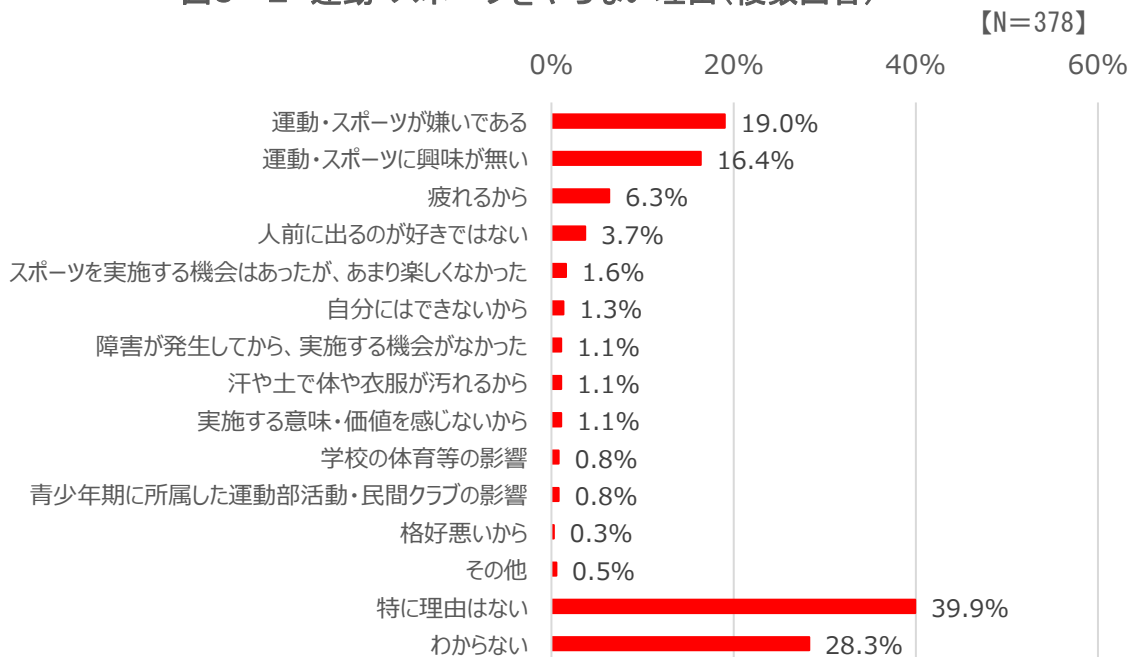
また、非実施者であって運動・スポーツを実施する上での障壁が「特になし」と回答した者に、スポーツを実施しない理由をたずねたところ、「特に理由はない」39.9%、「わからない」28.3%と無関心であることがうかがえるとともに、「運動・スポーツが嫌いである」19.0%、「運動・スポーツに興味がない」16.4%の割合が高い。

図3-1 運動・スポーツをやってよかったこと(複数回答)



※ 運動・スポーツへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図3-2 運動・スポーツをやらない理由(複数回答)



※ 回答者本人が障害児・者である場合のうち、スポーツを過去1年間実施せず、障壁が「特になし」とした者の回答を集計。

#### 4 この1年間に実施した運動・スポーツについて

「過去1年間に運動・スポーツを実施した」と回答した者が、実施したと回答した割合が高かったスポーツ等の種類は、成人、7～19歳ともにウォーキングや散歩（ぶらぶら歩き）であった。前年度調査と比較すると、成人、7～19歳共に「体操（軽い体操/ラジオ体操/運動遊びなど）」「なわとび」が大きく増加している。

図4-1 この1年間に実施した運動・スポーツ(成人)

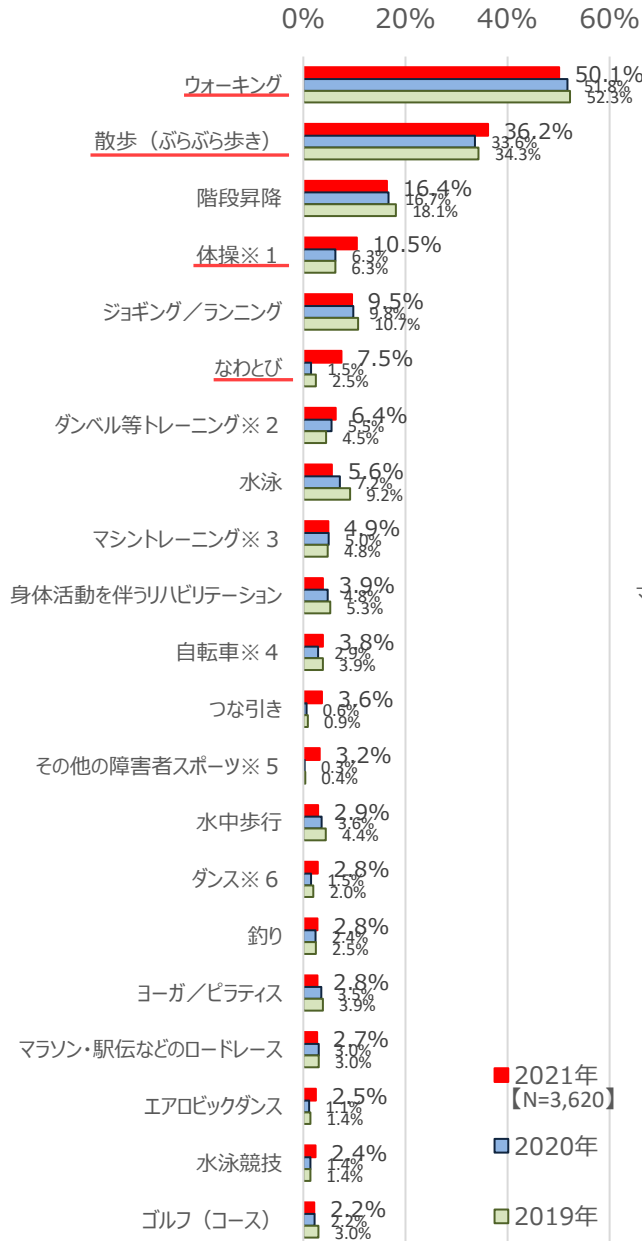
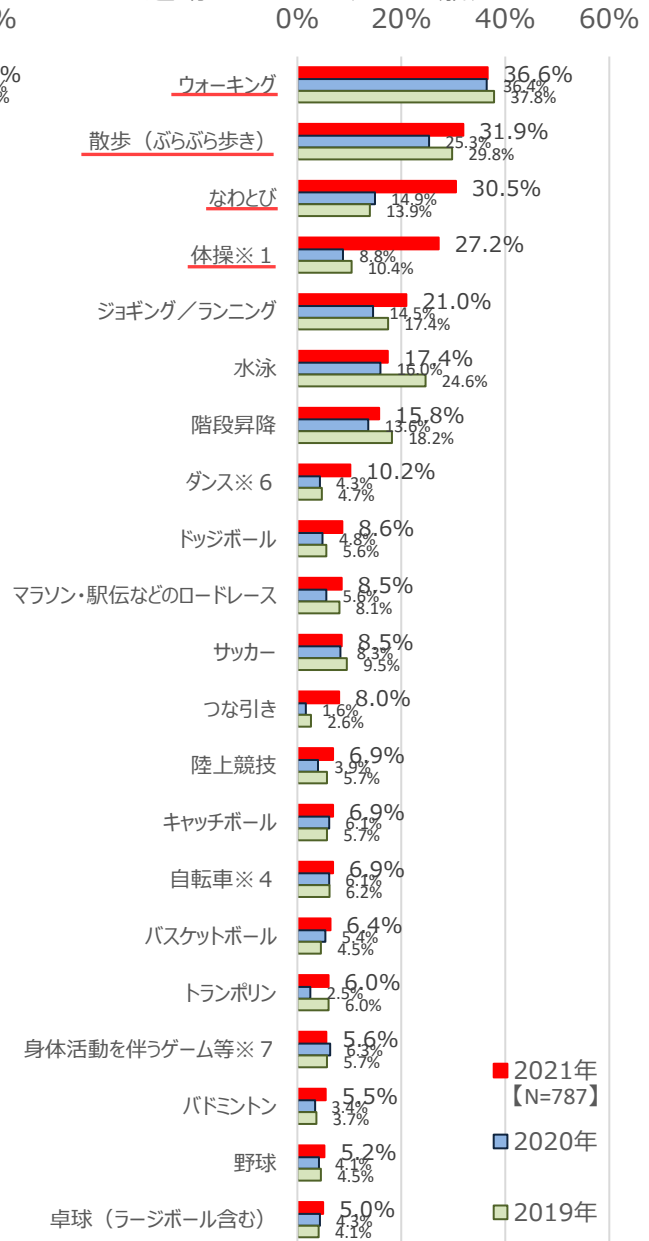


図4-2 この1年間に実施した運動・スポーツ(7～19歳)



- ※1 「体操（軽い体操/ラジオ体操/運動遊びなど）」
- ※2 「筋力トレーニング（ダンベル/自重のトレーニング）」
- ※3 「筋力トレーニング（マシントレーニング）」
- ※4 「自転車（BMX含む）/サイクリング」
- ※5 「その他の障害者スポーツ（アーチェリー/フライングディスク 等）」
- ※6 「ダンス（社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど）」
- ※7 「身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏 等」



## 5 運動・スポーツを行っている施設

運動・スポーツを行っている施設については、成人では「自宅（入所施設を含む）」が41.7%と前年度調査から大きく増加している。7～19歳では「通学している小・中・高等学校」が39.0%、次いで「自宅（入所施設を含む）」が25.7%と多く、どちらも前年度調査からも増加している。また、7～19歳、成人共に公共スポーツ施設、民間スポーツ施設が前年度調査から減少している。

図5-1 運動・スポーツを行っている施設(成人)

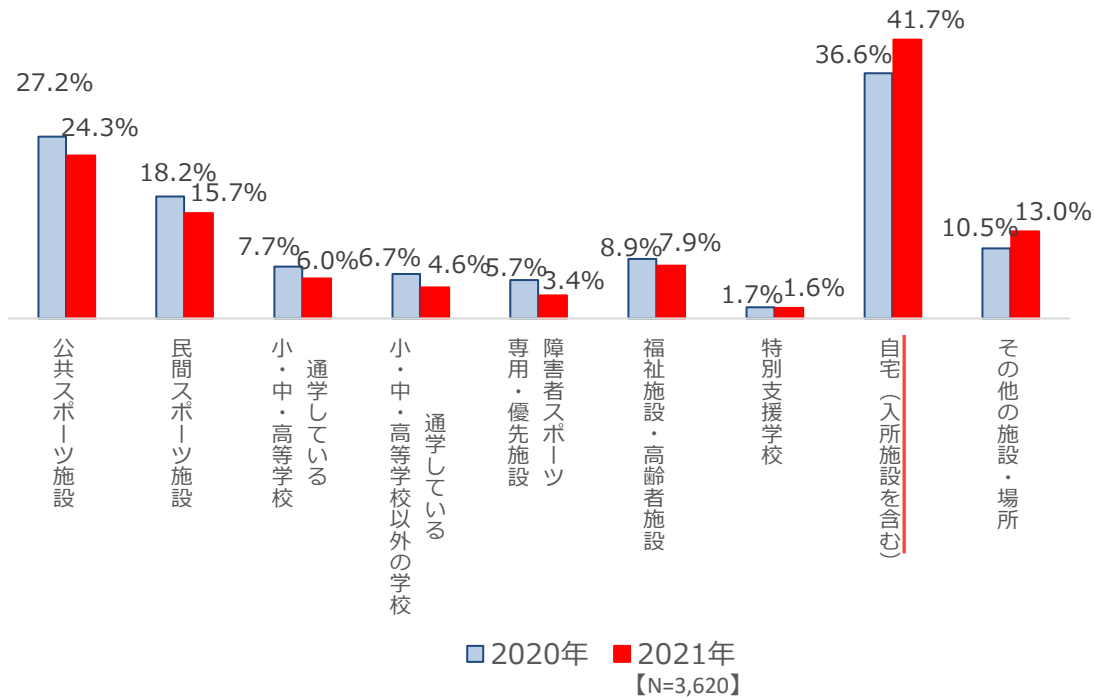
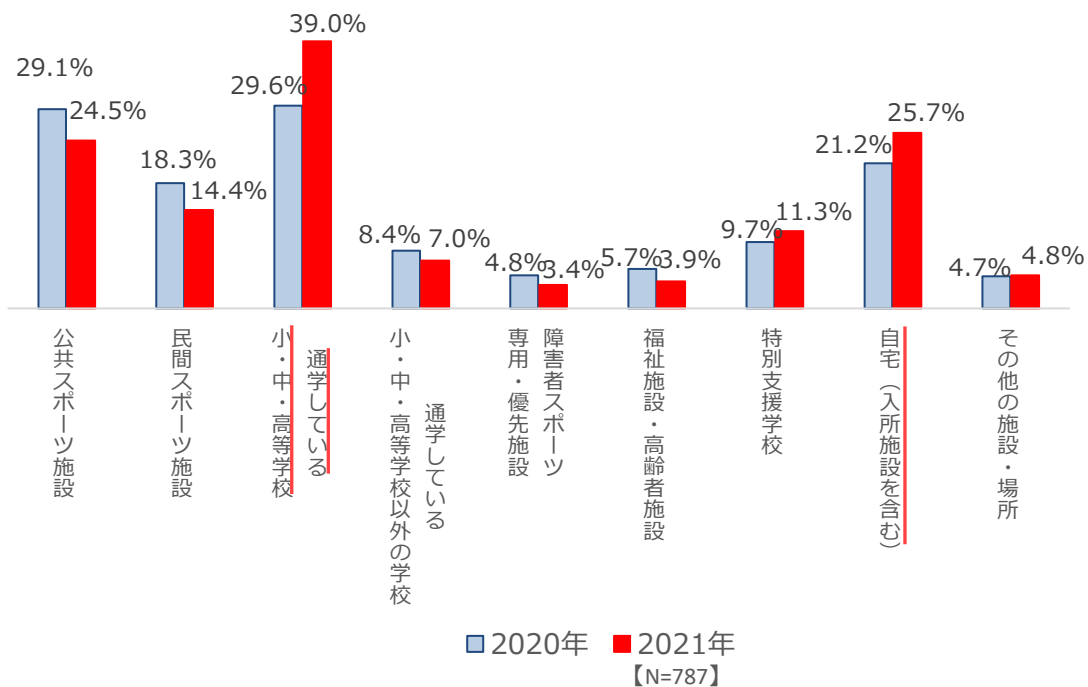


図5-2 運動・スポーツを行っている施設(7～19歳)



## 6 障害者の過去1年間のスポーツ観戦について

障害のある方が過去1年間にテレビで観戦したスポーツは、プロ野球（31.0%）、東京2020オリンピック大会（24.8%）、高校野球（18.7%）と続いている。東京2020パラリンピック大会についても17.3%と、上位5位に入っている。また、「観戦した種目はない」は、今年の46.8%と、昨年の52.1%から減少している。

図6 過去1年間にテレビで観戦したスポーツ

